

アルコール+抗菌コーティング剤で感染対策作業を大幅軽減 エステーの業務用除菌剤、ウィズ・コロナ時代の必需品に

エステーの業務用除菌・ウイルス除去剤「Dr. CLEAN+（ドクタークリーン）」がウィズ・コロナ時代の必需品として注目され、介護施設やクリニックをはじめ、ホテルや小売店、飲食店、オフィスなどさまざまな場所で使われはじめている。除菌・ウイルス除去効果が約1カ月持続することから、従来の除菌剤に比べて作業者の負担を大幅に軽減できるとともに、そこに集まる人々にも高い安心感をもたらすためだ。

昨年の新型コロナウイルス感染症発生以来、さまざまな場所で日々の感染対策が欠かせなくなつた。とくに不特定多数の人が触れるドアノブ、机・テーブル、手すり、トイレの便座、エレベーターのボタンなどの除菌作業は日常的に行われるようになった。

しかし、意外と知られていないのが、一般的に行われているアルコールの塗布による除菌だと即効性こそあるものの、持続的な効果が期待できないということだ。アルコールは塗布したあとすぐに蒸発してしまうので、再汚染されやすいのだ。

そこで、エステーが業務用除菌剤市場参入の第一弾商品として、昨年8月に発売したのが「Dr. CLEAN+」。62.9%の高濃度アルコールで除菌した後、銀系抗菌剤を超親水膜で表面に薄くコーティングするようにした除菌・ウイルス除去剤だ。富士フイルムから提供を受けた「Hydro Ag+（ハイドロエージープラス）」という技術を採用して実現した。

銀は古くから抗菌メカニズムを持つこ

とが知られているが、コーティングすることにより、その銀パワーを長時間にわたり発揮できるようにしたわけだ。すでに医療現場で使われている技術でもある。

一度塗布すれば1カ月間もしなくても高い抗菌性能を維持できることが確認されているが、同社では1日1回の塗布を推奨している。繰り返し塗布することで膜が塗り重ねられ、抗菌力の高いコート膜が形成されることから、よりクリーンな環境をもたらすと同時に除菌効果も高めていくことができるためだ。

従来からある塩素系やアルコール系などの除菌剤は1日に何度も塗布する必要があるが、1日1回の塗布で済むというのは感染対策作業に携わる人の負担を大いに軽減できるし、感染リスクに対する精神的な緊張感も和らげられる。

あるホテルでは、ドアノブなど場所によっては1~2時間おきに除菌作業を行っていたが、「Dr. CLEAN+」なら1日1回の使用で1カ月間効果が持続すると知って早速採用。館内の除菌箇所を無作為に抽出して、菌やその死骸の量、菌

の増殖を担う残存たんぱく質の量などを測定したところ、使用的都度アルコール除菌しているペンよりも「Dr. CLEAN+」で1日1回除菌作業を行ったエレベーターのボタンの方が残存量が格段に少なかったという。

また、ある介護施設では複数台あるリハビリ機器を利用者が使うたびに除菌していたが、「Dr. CLEAN+」を採用してからは朝の1回で済むようになり、利用者が手洗いを忘れるというリスクも考えずに済むようになったそうだ。

ただ、さまざまな施設や店舗などで除菌作業をしている姿を見せることが利用



「Dr. CLEAN+」は、簡かから式の噴霧式のスプレータイプ（右）がある」とある

者なり消費者なりに安心感をもたらすという面もある。そこで、同社では「除菌コート」を施していることをアピールするためのステッカーを用意。来店客やユーザーなどの目につきやすい場所に貼ってもらうことも推奨している。

発売当初からのスプレータイプに続いて、今年1月にはクロスタイプも追加。同社では学校や介護施設、クリニック、ホテル、オフィス、飲食店などの事業者に向けた業務用ルートで販売し、2023年までに、年間100億円規模とみられる国内業務用除菌剤市場でシェア10%の獲得を目指している。



エレベーターの操作パネル、便座など不特定多数の人が触れる対象物に長期の抗菌コーティングを実現（左：クロスタイプ、右：スプレータイプ）



**エステー株式会社
ビジネス開発事業部
事業部長 岡部豊**

感染対策と日常業務との両立を目指して
「ウィズ・コロナ」「アフター・コロナ」という新しい生活様式へと
移り変わる中、事業者にとって感染対策への業務面、精神面の負担が大きな課題となっています。

「Dr. CLEAN+」は、「抗菌コーティング」という新しいソリューションで、作業負担を軽減し、従業員も安心して働く環境づくりをサポートしていきたいと考えています。

ドラッグストアが導入、差別化にも一役

国内1900店舗を超えるドラッグストアチェーン「ウエルシア薬局（以下）」では、各店舗内の除菌対策として、エステーの「Dr. CLEAN+」を導入した。

その理由や導入してからの感想などを同社の感染対策担当者に聞いた。

——「Dr. CLEAN+」を導入する前の店内の感染対策として苦労されていた点や、その課題、対策について教えて下さい。

「導入前は、感染対策の効果の実感が得にくく、お客さまに伝わり難いと感じていた。また、不特定多数の手が触る場所は、チェックリストを用いて、清拭忘れないように対応していたが、毎日の

ことで負担も少なくない。持続効果のある抗菌コーティング加工も検討したが、費用も高く実施には至らなかった。」

——「Dr. CLEAN+」を導入した理由を教えて下さい。

「費用対効果が高く、他社製品との比較の中で科学的根拠に最も信頼があり、エステーが提案した資料のデータにも有効性があると思われた。従業員が自ら清拭を継続することで、感染対策への意識付けができることが重要と考えている」

——「Dr. CLEAN+」を使用して、従業員からの反応、声などはいかがでしょうか。

「非常に好評で個人的に欲しいという声も多い。清拭した表面が滑らかになり指紋がつかず清潔感がある。霧が細かく、容器が非常に使いやすいので手が疲れないと評価が高い」

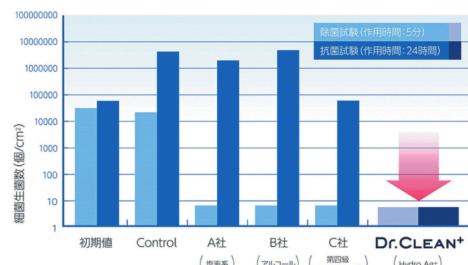
——「Dr. CLEAN+」を導入していることがわかるステッカーを貼り、可視化することで、お店の側としてお客様にどのようなことがアピール、発信できま

す。「感染対策に万全を尽くし安心安全に努力している事で、他社との差別化ができる。エステーや富士フイルムの技術力の高さは、幅広いお客様に周知されているので、より高い安全性が担保された店舗としてのアピールになると想えて

る」

——コーティングする場所や使用回数の拡大などについて、どのようなことが期待されますか。

「エステーと一緒に、店舗のリアルな状況の実証実験を行った結果、汚染されやすい場所や課題点などがわかつた。今後、安全性を高めながらコストコントロールをするために、細かくコーティングする場所や回数などを店舗毎の状況に合わせて実施しながら、その精度向上に努めていきたい。今後この優れた技術が多くの施設・企業に広がり、アフター・コロナの世界で様々なウイルスに対する日本の防疫に寄与される技術になっていくことを祈念している」



※告白写真はイメージ（非売品）

除菌試験：住宅用合成洗剤、及びけんかん除菌活性試験標準 殺菌試験：JISZ2801抗菌性試験標準

「Dr. CLEAN+」は抗菌効果が高く長期で持続する